

当たる!

広報クイズ⑮

応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへの意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

〇あて先 〒950-112 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係

〇締め切り 六月二十日(水)

〇抽選 六月二十一日(木)に市役所に来られた人に抽選していただきます

〇発表 七月一日号

今月の問題は...

- ①市内の交通事故の半数以上が起こっている国道8号。その事故の種類で多いものは?
- A 追突
B 正面衝突
C 飛び出し
(ヒント①三ページ)
- ②完成したばかりのカルチャーセンターで最初の催し物として行われた成人式。今年成人式を迎えたのは何人?
- A 八百二十五人
B 四百三十二人
C 五百六十七人
(ヒント②六ページ)
- ③農業一筋に人生を送ってきた真木新田の伊丹善太郎さんが、川への思いをつづった二冊の本を出版。タイトルにもなっているこの川は?
- A 大通川
B 中ノ口川
C 信濃川
(ヒント③十二ページ)

当選おめでとう!

[500円の図書券]

- ▶田村末奈美さん (七軒・4歳)
 - ▶大矢智彦さん (水道町5・11歳)
 - ▶田村ハルさん (日の出町・51歳)
 - ▶原光子さん (中央通5・40歳)
 - ▶玉木博隆さん (日の出町・12歳)
- [県立自然科学館招待券]
- ▶関根真理子さん (茨曾根・12歳)
 - ▶五十嵐美由紀さん (飯島新田・16歳)
 - ▶玉木正子さん (日の出町・36歳)



5月21日に市役所に来られた高橋克子さん(新潟市)に抽選していただきました。先月号の正解は①B②C③Aでした。応募総数は49通で、そのうち正解は45通でした。

市民談話室

原稿募集

7月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111⑤333) です。



カルチャーセンターに期待 住みよくなるさとの活性化を

荒木 宏さん (和泉・農業・六十七歳)

若葉がもえる四月の日曜日、完成間近いカルチャーセンターへ孫たちと出かけました。昔この辺りは、川根湯という腰まで没する水田でした。そこに第一中学校が建ち、今ここにカルチャーセンターの雄大な姿を見ると、かつては水面の小さな町を眺めていた子どもころを思い浮かべ、感慨無量です。昭和十年、耕地整理が行われてからできた道路で、白根の町



お年寄りに思いやりを

テレビで見えた正月風景の思い
西村知代子さん (上八枚・ニット業・三十九歳)

もうう立場について話されたのではないかと思つたのです。老いて家族から看護してもら身になったら、すなおに感謝



奉公先での思い出

うまかつた飯
富山重太郎さん (戸頭・農業・七十八歳)

私の家は貧農でした。私たち七人兄弟はほとんど口減らしのため、奉公に出されました。そのころはだれもがそうだと思つていました。世の中は不景気で食つていくのがやっと。奉公先では米を、米屋からではなく、夜市で百姓が二升三升と売りにくるのを買って食わしてくれました。そのような飯はことさらうまく、忘れられません。

五年間の年季奉公もやつと終わり、家に帰りましたが、やはり世の中は不景気続きです。しかたなく働くことのほかは少しの時間でも目を閉じて、仕事に精出してきました。いつのまにかこの年になってしまいました。考えてみると若いときの苦勞で、おしん根性”を身につけ、おかげで無事に生きてこれたのかもしれない。



市制三十周年に期待する

障害者にとつても住みよくなります
渋川博子さん (上大郷・公務員・四十歳)

早いもので長男が大鷲中学校にお世話になり一年が過ぎました。ごくあたりまえと思われるでしょうが、生まれた地域で義務教育を受けるということは、障害児と呼ばれる子どもたちに

とつては容易なことではないようです。おかげさまで関係者のご努力、地域の人々のご理解などが、車いすでの中学生生活が始まりました。本人なりにたいへんなことあったようですが

が、よい経験もできたと思つています。障害者にとつても住みよくなります、健康者といわれる私たちにとつても住みよくなります。長男がこの地に生まれてほんとうによかった、白根市に育つてよかったと思えるようなまちであつてほしいと思つています。私は現在健康ですが、いつ病気になるか、事故に遭うか、

また、障害者となるか分かりません。そして、年を取っていくというだけのことだと思つています。健康な人もお年寄りも障害者もみんな普通に生活できる、そういう白根市であつてほしいといつも願つています。市制三十周年にそういうことを期待したいと思つています。

市民文芸

短歌

五月雨に濡れて一際色の牙え
黄に俯ける棕櫚の花房 泉 博

帯解かず幾夜過ごすか病棟の
屋根にかりしいさよの月 小林キミイ

帰り行く兄を送りし新津駅
最後となるか何か寂しき 小出よし

嵐溪の宴の席に我が妻の
つひに飛び出すメロディに汗 小出熊四郎

黄ばみゆく妻の穂並みを騒がせて
若葉の風の早苗田渡る 中村 京

俳句

もの芽のはぐれて己が色となる 安沢 飛浪

芽の動く気配挿し木に見えて来し 成沢 素明

春宵や新居のあかり灯りたる 古川 綾

逢瀬の一叢の黄の明るさよ 細貝 漢子

ふところ手してもめごとに加はらず 公衆 雪夫

春の雨新聞少し濡れて来し 内山 京子

万愚節それを承知のことなれど 豊木サダ子

浅瀬みな口を開いて昼厨 金田 イト

はいといふ声も弾んで入学す 和泉 伸子

川柳

春宵の川面に揺れるネオンかな 小林 すみ

老人に仕事をくれる庭の草 佐藤トミノ

口上の誘いに乗った紛い物 佐藤 ヨキ

鈴を振り眠る神様揺り起こす 高橋祐四雄

仏頂面飲んだ途端の患比須顔 竹石 甚五

娘が嫁ぎ歩調合わせる凡夫婦 田中 成子

なにもかも妻の日記にある暮らし 田村 恒夫

皇太子妃に比例代表一位選る 中村 尚治

花の前しばし忘れる挫折感 西条 ムラ

苦勞人苦言も入れてする祝辞 早川 英男

相づちを打ってリンゴの皮をむく 山岡 フミ

カーネーション期待外れの母もいる 本間 雪江

生誕のドラマ幸せ満ちてくる 吉川 彰

赤ん坊何か握っているらしい 米野 光雄

食卓が乾き切つてる倦怠期 津井 七郎

一杯のビールに酔った奴隷 織田 セツ

飽食が地球の病重くする 後藤マサノ

子育てが終わると気付く敏の教 時田 良子

日本晴れ年金貯めた夫婦旅 荒木 イク